opusdei.org

# オプス・デイの協力 者、短い証言の4

フィリピン、ケニア、メキシコ、シリア、エストニアの協力者の証言を紹介します。

2016/03/29

#### 沈黙のうちに働く心

ホセ・マリア・イエサ・カチョ

イロイロ (フィリピン) 在住

経営者・視覚障碍者援助のNGOに協力

私は目が見えません。自動車事故で 視力を失いました。受けてきた形成 を通して、私の結婚生活こそ、私に とって聖性への道であると気づきま した。できる限りよい夫、父親とな ることで。さらに、うまくいかな かったときには、神様の助けを受け て、もう一度やり直すことができる のです。日常生活の中の小さな戦い さえも聖化しうることを学びまし た。教会は、手足や頭や足があるひ とつの体です。その手足となって活 動する人たちのような素質は私には ないでしょう。けれども、キリスト を愛し、日々の祈りと犠牲があれ ば、沈黙のうちに、途切れなく働く ことを通して、誰もが教会に命を与 えることができるのです。

## カトリック教会への愛情のしるし

アイシャ・バダマナ

キリマニ (ケニア) 在住のイスラム 教徒

「小さな鳥たち」幼稚園の経営者・ 園長

必要としている人たちを援助する事 業に協力するときには、いつも自問 します。私たちは何のために造られ たのだろうか。神さまと人を愛する ために。「オプス・デイとはどうい う意味ですかしと尋ねたら、「神の 業という意味です | と言われまし た。それこそ、私がしたいことだ! と思ったのです。経済的に困ってい る人々を助けるための事業に参加す る度に、神様に感謝していますが、 今以上に私が神に近づくためには、 もっともっと助けるべきだと思って います。ですから、「もっと何がで きますか? | と自分に尋ねます。そ うすることは、自分の家や什事場 で、什える心で務めをよりよく果た すことを助けてくれます。形成の活

動の中に感じられる一致や愛情、霊的な指導や謙遜、多様性などに強く魅かれました。アジア人だとかアフリカ人だとか言って区別することなく、あらゆる国籍の人たちが一致していることに、とても感銘を受けました。

## 自分の家のように

スルタニ・ゼガイブ・サーブ・アン デレ

メキシコ・シティ(メキシコ)在住

マロン教会のカトリック教徒・社会 福祉に従事

最初にオプス・デイを知ったのは、 レバノンでした。オプス・デイのセンターに通うようになってから、神 様にもっと近付けるようになりまし た。経済的に困っていると分かった ので、いろいろな形で援助してが、後に、協力者になることが したが、後に、協力者になること 知りました。現在は毎日オプス・デイの 金をし、毎日オプス・デイの手が はなりました。 神様に近付のたら助け となりましたいというかねてから でいたことに、 意味を与えて した。

#### 霊的な利益

メアリー・N・ギチュイリ

ニエリ(ケニア)在住

教師を退職後、畜産業に従業

ある友人からオプス・デイのことを 教えてもらったのがきっかけです。 キムレアでの黙想会に誘ってくれた

のです。協力者になったのは、少な くとも貧しい人たちのための活動 は、手助けできると思ったからで す。神さまがお与えくださった物的 なものを、必要な人たちと分かち合 うことは私の義務であるし、そうす ることによって、私は霊的に豊かに なることができます。毎日、オプ ス・デイの使徒職のためにロザリオ を祈り、ごミサの中で祈っていま す。また、毎月献金をするようにし ていますし、キムレアの学校での調 理実習のための牛乳と野菜を届けて います。

持っているものはすべて借り物

ミゲル・カルバクジ・ジクー

アレッポ(シリア)生まれで、現在 はベネズエラ在住

私が確信しているのは、神様が私に いくらかのものをお恵みくださった のであれば、人々にそれを分配すべ きだろうということです。私は「協 力する」という言葉が好きです。な ぜなら、協力者になるというのは、 単にいくらかの手助けをすることだ けでなく、神様の愛に応えるひとつ の方法だからです。神様が私にお望 みのことを果たすことです。私が 持っているものは、私のものではな く、借りもの、神様のものだと信じ ています。持っているものをすべて 使い、できることをすべてして、可 能な限り協力していこうと思ってい ます。そうすることを、神様がお望 みだと思うからです。

## 我が家の雰囲気が変わりました

ウーデ・ウット

タリン (エストニア) 在住

6人の子どもたちの母親

数年前、世の中について、また人生 の意味についての疑問の答を探し て、自分の通っている教会のカテキ ズムのクラスに参加し始めました。 そこで知り合った人を通して、オプ ス・デイのセンターに行くように なったのです。しばらくしてから、 協力者にならないかという提案を受 けました。自分にそれが可能かどう か少しの間迷いましたが、協力者に なる決心をしました。若者たちのた めのクラブの活動に協力するように なり、同時に、カトリック要理や家 庭についてのクラスにも参加するよ うになりました。このような形成の 手段は、私の日常生活に新たな力と 経験を与えてくれました。人数の多 い私の家族の一人ひとりが幸せであ るために、時間と関心を費やすこと

を学びました。正直言って、それから我が家の雰囲気は変わりました。 互いの配慮が深まり、喜びが増したのです。

pdf | から自動的に生成されるドキュメント https://opusdei.org/ja-jp/article/shougen-4/ (2025/12/13)